

第2学年
国語科

単元名

「紙芝居でお話を紹介しよう」

教材名

「お手紙」

単元（題材）の目標

文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。（（1）-カ）

（知識及び技能）

場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（C読むこと 工）

（思考力、判断力、表現力等）

物語に興味をもち、楽しんで読もうとしている。

（学びに向かう力、人間性）

指導のポイント

- 楽しい紙芝居にするためには、人物の気持ちが聞き手に十分伝わるように音読しなければならない。そのためには、物語を深く読む必要がある。このように、紙芝居作りと紙芝居を紹介する活動を通して、物語を場面に分けて捉える力と、人物の気持ちを読み取る力を育成できると考える。
- 紙芝居を作るためには、適切な切れ目ごとに絵を描いて話を展開させていくことが必要となるため、時や場所を表す言葉に着目させ、物語の場面分けを考えさせるようにする。
- 導入前に紙芝居の面白さにふれさせるため、紙芝居の読み聞かせをしておく。
- 学習課題をより深く考えられるようにするため、初発の感想を分類し、まとめたものを児童に配布する。
- 人物の気持ちを想像するために、それぞれの人物の吹き出しを考えさせ、多様な考え方に触れられるようにする。その交流を基に、音読の仕方を考えさせるようにする。
- 場面の絵があり、二人の吹き出しが書き込める画用紙（表側）と、音読の工夫を書き込めるよう行間の広い紙芝居シート（画用紙の裏側に貼り、紙芝居の原稿となるもの）を使用する。
- 音読で人物の気持ちを表現しやすくするために、喜怒哀楽マーク（登場人物の気持ちを表す印）を紙芝居シートに書き込ませるようにする。
- 聞き手が「もっと聞きたい！」と思えるような紙芝居にしていくために、ペアで互いの考えが深まる交流をさせるための、具体的な交流の観点を示す。
- ペアで紙芝居の練習をした時に、お手紙（アドバイスカード）を手渡すようにする。

単元（題材）の指導計画

	児童の学習活動	指導上の留意点
1	「お手紙」を読んで感想を書く。	<ul style="list-style-type: none">• 手紙についてこれまでの体験や経験を出し合い、教材文に興味・関心をもたせるようにする。• 学習計画を示し、これからどのような学習を通してどのような力を付けるのか児童に自覚できるようにする。• 本単元のゴール（紙芝居で友だちにお話を紹介すること）を示し、初発の感想（「おもしろかったところ」「感動したところ」「良かったところ」「疑問に思ったところ」の観点で）を書かせる。• シリーズ本である、「ふたりはともだち」「ふたりはいっしょ」「ふたりはいつも」を紹介し、読書環境を整える。

2	学習を見通し、課題を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 前時で書いた感想をまとめたものを配布し、共有させる。 学習計画を見ながら、紙芝居で紹介するために、どのように学習をし、どんな力が付くのかを考え、学習課題を生み出せるようにする。
3	「お手紙」の五つの場面を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵を手掛かりにして、場面の分け方を考えさせる。 時や場所を表す言葉や、「だれが」「何をした」に留意しながら、教科書に線を引くようにさせる。
4	①の場面を想像しながら読み、紙芝居シートをつくる。	<ul style="list-style-type: none"> 悲しい気持ちが分かる言葉に着目させ、紙芝居シートの吹き出しを考えさせるようにする。
5	②の場面を想像しながら読み、紙芝居シートをつくる。	<ul style="list-style-type: none"> かえるくんが急いでいることが分かる文に着目させ、紙芝居シートの吹き出しを考えさせるようにする。
6	③の場面を想像しながら読み、紙芝居シートをつくる。	<ul style="list-style-type: none"> 二人の行動や様子に着目させ、紙芝居シートの吹き出しを考えさせるようにする。 諦めているがまくんや、手紙を待っているかえるくんの気持ちを想像させる。
7	④の場面を想像しながら読み、紙芝居シートをつくる。	<ul style="list-style-type: none"> 二人の様子や気持ちが分かる言葉に着目させ、紙芝居シートの吹き出しを考えさせるようにする。
8 本時	⑤の場面を想像しながら読み、紙芝居シートをつくる。	<ul style="list-style-type: none"> 二人の気持ちを想像させ、紙芝居シートの吹き出しを考えさせるようにする。 二人にとって「手紙」とはどんなものだったのかを話し合うようにする。
9	グループになって「お手紙」を紙芝居で紹介し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 読み手には、これまでの学習で想像したことを、吹き出しや喜怒哀楽マークを基に表現できるよう声をかける。 聞き手には、場面の絵と読み手が考えた吹き出しのセリフを見ながら、読み手が具体的に想像を広げながら読んでいるかに注意して聞かせるようにする。 聞き手から、読んだ友だちにお手紙を渡すよう伝える。 この学習を通して、できたことや力になったこと、生活に生かせそうなことなどを振り返らせる。


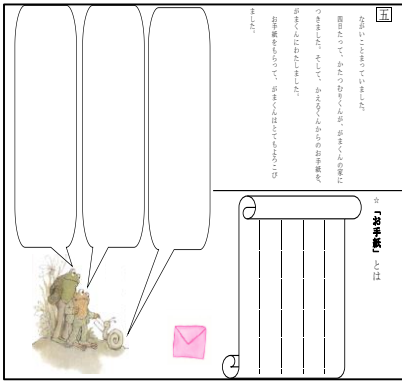
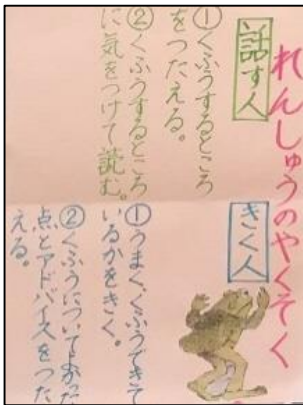
【紙芝居シートの作成手順】

- ①音読をする。
- ②音読の仕方を考え、喜怒哀楽マークを書く。
- ③紙芝居シートの吹き出しに、人物の気持ちを想像してセリフを書く。
- ④セリフを発表し、なぜそのように考えたのか、場面の様子、登場人物の行動、会話などを手掛かりにして理由を発表し、その意見を共有する。
- ⑤ペアで読み合いをし、読み合った後にお手紙（アドバイスカード）を渡す。
- ⑥交流したことを基に、場面ごとに紙芝居を仕上げる。

展開例 (本時 8/9)

本時の目標

○手紙が届いたときの人物の様子や気持ちを想像することができる。

		児童の学習活動	指導上の留意点
導入	○本時の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容や1時間の流れを示し、児童に見通しをもたせるようにする。 	 <p>学習計画</p>
	ふたりのようすやきもちをはなしあおう。		
展開	○二人の様子や気持ちを考えながら④、⑤場面を読み、想像したことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・音読をさせ、喜怒哀楽マークを書き込ませるようにする。 ・場面の様子、二人やかたつむりくんの行動、会話などに着目させ、紙芝居シートの吹き出しを書かせるようにする。 ・吹き出しに書いたセリフを発表させ、その理由も発表させることで、多様な考えや意見にふれさせ、みんなで共有させるようにする。 	 <p>紙芝居シート</p>
	○手紙が届いたときの二人の気持ちを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・二人にとってお手紙とはどのようなものかを、これまでの交流や自分の経験などを基にして考え、紙芝居シートに書かせるようにする。 ・書いたことを基に交流し、たくさんの友だちの考えに触れさせ、お話の題名でもある「お手紙」について考えを深めるよう助言する。 	
	○二人やかたつむりくんの様子や気持ちを想像しながら⑤場面をペアで読み合い、紙芝居を仕上げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの交流を基に、二人の気持ちやかたつむりくんの様子や気持ちを想像して読むよう伝える。 ・ペア活動の際、読む人、聞く人両方に約束を伝え、ペア活動をする意義を伝える。 ・なぜ、そのような喜怒哀楽マークを付けたのか、なぜ、そのような吹き出しを考えたのか、ペアで理由を伝え合わせ、自分一人では想像しなかった考えに触れたり、自分の考えを明確にしたりできるようにさせる。 ・ペアで読み合いをさせた後、良かった点や感想を書いたお手紙を渡すようにさせる。 ・⑤場面の紙芝居を仕上げるよう伝える。 	 <p>練習の約束</p>
まとめ	○学習の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習で「分かったこと、できたこと」、「友だちの良かったところ」、「分からなかった、できなかったこと」、「次、してみたいこと」を中心に振り返らせ、発表させるようにする。 	